

古川美術館・分館 爲三郎記念館（旧古川爲三郎邸） 同時開催

佐光亜紀子 洋画展 ― 画業50年のときめき

取材のお願い

謹啓

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、2025年3月15日より、
名古屋市千種区の古川美術館では、
古川美術館・分館 爲三郎記念館の
両館において長久手市在住の洋画
家・佐光亜紀子の画業50年を記念
する回顧展（総数約45点）を開催
します。2022年に開催し好評を博
した佐光展の第二弾となります。

つきましては是非とも貴媒体にて
ご紹介いただきたく、お願い申し
上げます。

謹白



【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 小柳津 綾子 (a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)

愛知の洋画家・佐光亜紀子 画業50年 自選展 総数約45点

長久手市在住の洋画家・佐光亜紀子の画業50年を記念する回顧展（総数約45点）を古川美術館・分館爲三郎記念館（旧古川爲三郎邸）の両館を会場に開催します。2022年に開催し好評を博した佐光展の第二弾となります。

佐光は女子美術大学に学んだ後、洋画家としてヨーロッパ他、94か国もの世界各地の遺跡を巡りました。古川美術館では、1980年代の初期作品から、鮮やかな色彩と光あふれる約10点の新作・近作に至るまで、大作を中心にお届けします。ギリシャのパルテノン神殿、パリのエッフェル塔、ナスカ地上絵、イスタンブールのブルーモスクなど、世界各地の史跡を佐光の心象として表した作品は、遺跡に取材しつつも、旅の感動から想起した遥か古の偉人たちへの憧憬をのせて、花や女性、月と組み合わせ表現されています。画業50年を通して「世界遺産」と「花」を焦がれるように追い求める、佐光亜紀子のときめきに満ちた絵画をお楽しみください。

佐光亜紀子プロフィール

岐阜県出身。1966年女子美術大学に学ぶ。1972年ヨーロッパ一周旅行。その後、世界各国（94か国）の文化史跡・遺跡を訪ねる。1980年日洋展にて東海テレビ賞受賞。新芸術展にて1982年日本文化振興会賞、1998年文部大臣奨励賞受賞。1985年女流画家協会展出品（～1990）。1994年、2004年画集刊行。2007年絵本「花の国の風のためいき」刊行、2008年同英語版刊行。名古屋丸栄スカイル、名古屋電気文化会館、日本橋三越、名古屋栄三越、仙台三越、梅田大丸、客船飛鳥、パリ、台北三越等、個展多数。現在、愛知県長久手市在住。

サロン・ドートンヌ会員（フランス）

ミャンマーにて



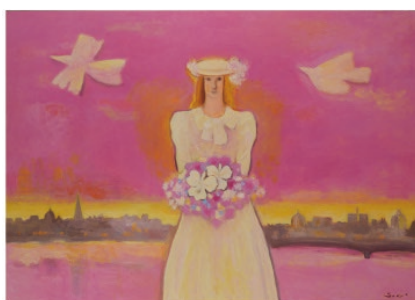
想い出うるわしーときめきの余韻 時が世界を歩く

佐光が訪れた各地の風景は、作者が想像を膨らませ、心の眼で見た詩的な世界となり、ときめきの産物である佐光作品として私たちに届けられます。それは、愛と希望に満ち、天性の明るい色彩と光で描かれた人間賛歌となっています。

作品の女性は、佐光が現地で出会った女性や、遺跡から想起した歴史や神話の人物、時に自身の分身のような存在。想い出の余韻を漂わせるとともに、生きる希望を伝えています。



「水鏡ーイギリスの古城」【新作】
2024年 80号F



「セーヌの流れ」2019年 150号F



「白い馬・イスタンブール」
1990年 100号F

Topic1 画業のテーマ「世界遺産」と「花」

会場：古川美術館
約24点

テーマ1 世界遺産

世界の遺跡からは 古代の人々が捧げた 祈りが伝わってくる
滅びゆく遺跡の美を 私の感動と思い出の一ページとして 描いてゆきたい



「オルフェウスの竖琴」【新作】
2024年 100号F



「いとしきものーイスラム文明の華たち」2024年 150号F 【新作】



「ナスカ我が愛ーマリアライヘに捧ぐ」2004年 60号F

20代の頃より訪ね歩いた世界の文化史跡や遺跡。94か国にのぼる国々を旅し、人類の創り出した偉大な文化に思いをはせ、人間が生きた証でもある遺跡から感動を得ていた佐光亜紀子。学生時代から世界の戯曲・文学を愛する佐光が、遺跡から様々なストーリーを展開させ、太古へのロマンを色と形に託して描き出した世界遺産をお楽しみください。

テーマ2 花

花は 神が生み出した 地球上で最も美しいもの
その花の短い命を 絵の中で永遠に咲かせてみたい



「ミモザ咲くパリ」2024年
100号F 【新作】



「赤い花咲く窓辺に」1998年 120号F



「胡蝶蘭と金魚」2000年 100号F

「花」は佐光が語る地球上で最も美しいもの。佐光が旅した外国の風景と花が組み合わせられ、窓辺の花シリーズが誕生しました。花から生まれた絵の中の鳥は、希望に満ち空高く舞い上がります。近作では、華やかなピンク、光を帯びた黄色と、画面は一段と鮮やかさと輝きを増し、愛と希望のメッセージを見る者に届けています。

Topic2 数寄屋建築と佐光作品の競演

ときめきの予感一緑の風ささやく

昭和初期の趣ある数寄屋、爲三郎記念館と佐光作品の競演



【新作】

「ロアールの少女」
2024年 100号F



【新作】

「れんげの花咲く頃」
2024年 100号S

桃色ドレスの女性が
日本家屋の玄関でお出迎え

会場:分館 爲三郎記念館
(旧古川爲三郎邸)約24点



Topic3 佐光亜紀子 毎日！アーティストトーク

毎日、午後2時から、佐光亜紀子本人が古川美術館で作品を鑑賞しながら解説を行います。

【ロビーにて放映】

「長久手に暮らすアーティスト 洋画家 佐光亜紀子」 * 佐光亜紀子の画業をご紹介
ひまわりネットワーク株式会社 (2020年12月放送) 約15分

展覧会の思い出に

展覧会オリジナル図録・ミュージアムグッズ

- ① 展覧会オリジナル図録 販売 (税込1500円)
* 大作が中心となる古川美術館展示の全作品と、分館爲三郎記念館の作品、計36点をご紹介。
佐光亜紀子による作品解説付です。
- ② 展覧会オリジナル絵はがき、マグカップ、タオル、菓子などを販売予定

佐光作品・展示風景の一部が撮影可能です

世界遺産の描かれた
大作とともに！



☆古川美術館 4点が撮影可「オルフェウスの竖琴」「ミモザ咲くパリ」他

☆分館 爲三郎記念館は全て撮影可



広報使用画像 mail : a_suzuki@furukawa-museum.or.jp (担当学芸員 ^{おやいつ} 小柳津 綾子)

メールにてお問合せください。他の画像も全て用意できます。



「オルフェウスの豎琴」
2024年 100号F

【新作】



「ミモザ咲くパリ」2024年
100号F

【新作】



「いとしまのーイスラム文明の
華たち」2024年 150号F

【新作】



「水鏡ーイギリスの古城」
2024年 80号F

【新作】

展覧会情報

同時開催 古川美術館・分館爲三郎記念館(旧古川爲三郎邸)
「佐光亜紀子 洋画展 ― 画業50年のときめき」

- ◆2025年3月15日(土)～4月13日(日)
- ◆休館日 月曜日
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで)
- ◆会場 古川美術館・分館爲三郎記念館(同時開催)
- ◆主催 公益財団法人 古川知足会
- ◆協力 株式会社イノアックコーポレーション
- ◆後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、長久手市教育委員会、中日新聞社、CBCテレビ、東海テレビ放送、スターキャット株式会社、ひまわりネットワーク株式会社
- ◆観覧料 大人1200円 高大生500円 中学生以下無料 ※二館共通入館券となります。